

葛巻が目指す協働のまちづくり

本員を委嘱し、月々給与を支給

町は、本年度の重点施策に「協働のまちづくり推進指針」の策定を掲げています。町民と行政が共に考え、協力しながら取り組んでいくのが「協働」によるまちづくりです。まちづくりの主役は、地域を支えている町民の皆さんです。町は指針の策定により、皆さんに分かりやすい形で協働のまちづくりを進めていきます。



地域の環境衛生は、地域の手で守られています（クリーン作戦）

協働のまちづくりとは

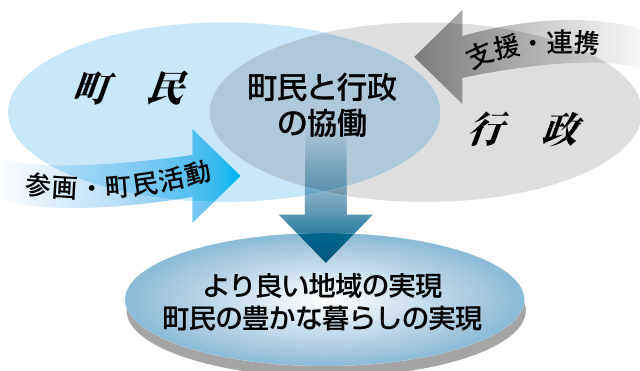
これまで「まちづくり」というと、行政が中心になって行うものと考えられがちでした。

「協働のまちづくり」とは、町民は互いに助け合い、町民と行政はまちの課題に対して責任を共有しながら、協力し合ってまちづくりを進めていくことをいいます。

今なぜ「協働」なのか

「国の権限や財源を県や市町村に移して、地方のことは地方で決められるようにし、その責任も地方が負う」という地方分権の流れが加速し、これまで以上に地域や自治体独自のまちづくりが求められています。

協働のまちづくりイメージ図



また、町民の満足度の高いまちづくりを進めるため、町全体の活力を高めていく必要があります。少子高齢化や生活様式の多様化・

個別化が進み、厳しい財政状況の中で、行政だけではきめ細やかなサービスの提供に限界があることもあげられます。

これらの課題を解決していくために、町民と行政が一緒に考え、決めていく仕組みの「協働のまちづくり」を進めようとしています。

地域の協働の取り組み

協働の取り組みは、今始まったものではありません。これまでも各地区で相互扶助の考え方から行われてきた福祉活動や河川清掃、クリーン作戦、花いっぱい運動、消防団活動などが協働の取り組みなのです。

最近では、いきいきシルバー交

流センターによる仕事の手伝いや外出支援サービス、配食サービスなどの福祉活動がわかりやすい事例かもしれません。

民間団体の活動も活発になり、「ひとねっと倶楽部」（近藤勝彦代表）では、コンサートの開催や交流事業などが行われています。

また、JRバス葛巻駅舎を利用した企業組合オアシス（高宮時男代表）によるレストランの営業、協同組合まちの駅くずまき（堀場伸男理事長）の産直施設の運営などがあげられます。

環境面では、くずまき環境パートナーシップなあす（向川原孝代表）の省エネルギーなどの取り組みがあります。